

1960竣工

高度経済成長期を支えた

# 貨物船



2020

10.17 [土] - 1.17 [日]

2021

10:00 - 17:00 最終入館 16:30

会場：日本郵船歴史博物館 企画展示室

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）、臨時休館日、12月28日（月）～1月4日（月）

入館料：一般・大学生 400円、シニア（65歳以上）・中学生・高校生 250円、小学生以下無料、障がい者手帳  
もしくは特定疾患受給者証をお持ちの方（介護者1名含む）無料 ※日本郵船米川丸とのセット券あり

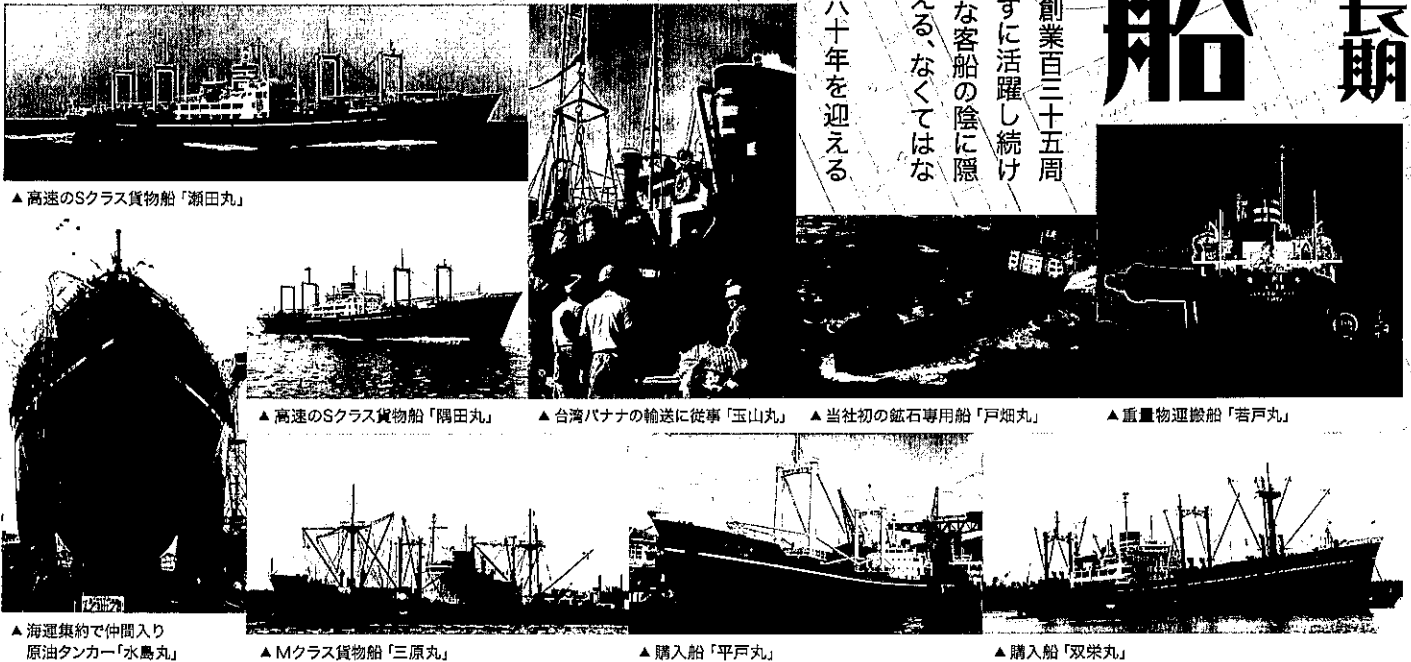


# 1960竣工 高度経済成長期 を支援した 貨物船

日本郵船は二〇二〇(令和2)年に創業百三十五周年を迎えます。創業当初から変わらずに活躍し続けている船といえば貨物船です。華やかな客船の陰に隠れがちですが、私たちの暮らしを支える、なくてはならない存在です。

本展では、二〇二〇年に竣工から六十年を迎える当社の貨物船をご紹介します。竣工した一九六〇(昭和35)年の日本は高度経済成長期、なかでも若戸景気と呼ばれる好景気の真っただ中で、当社の所有船腹量は計画造船や他社船の購入により拡大を続けていました。従来の貨物船だけでなく各種専用船が登場し始め、数年後にはコンテナリゼーションを控えた、まさに過渡期といえる頃です。一方、氷川丸引退による客船事業からの撤退という大きな出来事があったのも一九六〇年でした。

この年に竣工した船の航跡を辿ると、この時代ならではの船の役割や特徴が見えてきます。高度経済成長期に生まれ、地道に暮らしを支えた船たちについて振り返ります。



▲高速のSクラス貨物船「瀬田丸」

▲高速のSクラス貨物船「隅田丸」

▲台湾バナナの輸送に従事「玉山丸」

▲当社初の鉱石専用船「戸畑丸」

▲重量物運搬船「若戸丸」

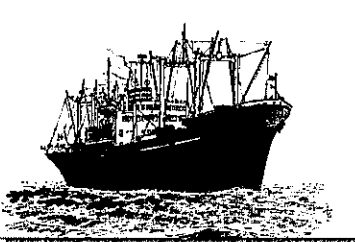
▲海運集約で仲間入り  
原油タンカー「水島丸」

▲Mクラス貨物船「三原丸」

▲購入船「平戸丸」

▲購入船「双栄丸」

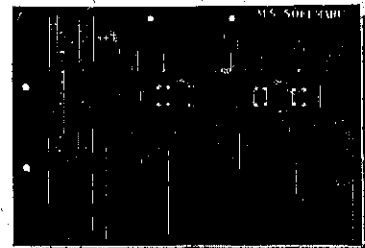
## 展示資料



▲瀬田丸 水彩画(若瀬玄海画、当館所蔵)



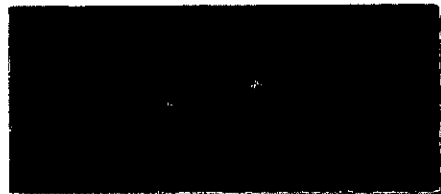
▲玉山丸 就航記念灰皿(当館所蔵)



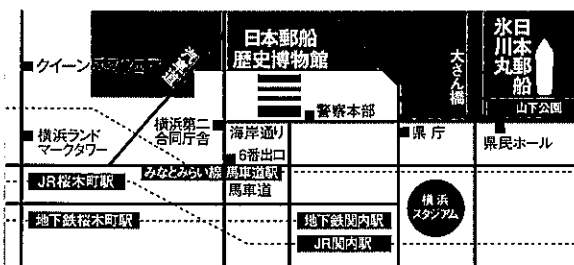
▲双栄丸 青団(当館所蔵)



▲隅田丸 進水記念絵葉書(外袋、当館所蔵)



▲Guide to Travel by Cargo Liners(当館所蔵)



交通:みなとみらい線「馬車道」駅6番出口から徒歩2分、  
JR・市営地下鉄「関内」駅から徒歩8分  
住所:〒231-0002 神奈川県横浜市中区海岸通3-9  
TEL:045-211-1923 / FAX:045-211-1929



新型コロナウイルス感染症の予防対策として、ご入館の際は「検温」「マスク・手袋の着用」をお願いしています。感染拡大の状況により会期等に変更が生じる場合があります。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://museum.nyk.com/>